



馬場ちゃん

の

沖縄

冒険記

1. 始まりの朝

20XX年某日。いつものように僕は目覚めた。今朝からなんだか胸騒ぎがする。そう、今日は家族で沖縄に暑さを忘れに行く日なのだ。といっても、東京は25℃程の気温であり避暑を求めるには少しばかり早すぎる。

まあ兎にも角にも沖縄へ旅立つのだ。

家族で沖縄に行くのは実に10年ぶりくらいだ。以前に行ったのは私がまだ小学校低学年のときで記憶はあまり残ってはいない。あるとすれば、貸し切ったタクシーの中で車酔いに苦しんでいた記憶くらいしかない。

私は今回の沖縄旅行が楽しみだった。やはりそれは、ありふれた日常を忘れ、泡盛とオリオンビールに舌鼓を打つのが楽しみだったからだ。沖縄の料理をつまみに、浜辺で一杯やるのもなかなかおつなものである。親との会話も少なくなってきた年頃なだけに、お酒の力も借りて、親と親密な話でもしようかと思っていた。

では、そろそろ飛行機の時間なので失礼。



2.機上の人

というわけで、私を含め家族3人は機上の人となった。ここで今回の旅行を共にする私の家族を紹介しよう。

まずは母親。歳は伏せさせていただく。いつも明るく若づくりをしており意外とエネルギッシュである。いつも旅行の案件は母親から発信されているのだ。今回の沖縄旅行意外にも海外旅行などを数多くこなしている。

次に姉。年齢は私の3つ上。既に社会人として働いているが、頼りない。母親が行くところには、たいがいついて行きあまり自分の意志を持っていないように思える。そろそろ、嫁にでも行くころかな？

羽田空港へ着いた。実に広々としている。なかなかここへ来る機会はないので私ははしゃいでしまっていた。しばらく一人でお土産コーナーをみたり「空弁」を買ったりしていた。

とか言ってる間に飛行機の時間がきた。私たちが今回登場するのは全日空の国内線。私個人的には日本航空よりも全日空の方が好きだ。特に理由はないが、安心感があるからだ。

母と姉は離陸の瞬間が怖いといつも言っている。しかし、私は離陸の瞬間が一番好きだ。あの宙に舞う感覚と雲の上へと羽ばたいていくときの景色がなんともいえなく、飛行機に乗るときには一番楽しみにしているからだ。



この景色が一番お好みなんだな。

3. 南国の女

飛行機が滑走路にむかって降下していった。私はその時眠っていたが、機内アナウンスで着陸態勢に入ると聞いて起きた。離陸の時同様、私は着陸の時も好きだ。長いこと空を飛んでいた我々が、久しぶりに地上に降り立ったあの感覚。滑走路から見える、沖縄の空港や市街地の様子を見るのもなかなかいい。とりあえず無事到着だ。

空港内に入ると、たくさんのバスガイドさんたちが旗を持って、飛行機から降り立った乗客たちへ笑顔振りまっていた。私たち一行もツアーだったため、担当のバスガイドさんを探した。その中にひとときわ輝かしい笑顔のバスガイドさんがいた。私は彼女に見とれていた。

しかし、母親の粋な計らいでそのバスガイドさんと2ショット写真を撮るという偉業を成し遂げることができた！



4.THE 沖縄

というわけで、沖縄と言えば「海」！ということで、海岸にやってきました。正確に言えば、砂浜と呼ぶべきか。

感想としては、とにかく水が綺麗。透明度が抜群によかった。しかし、遊泳したりするにはいささか季節がズレていたこともあり、砂浜を歩いたり、貝殻集めという乙女チックなことをして過ごした。次来た時には絶対にお泳ぎたいと心に誓った。

私の頭の中の沖縄の海のイメージと言えば、「砂浜」「パラソル」「ヤシの実」「水着の娘」であったのだが、現実はなかなか厳しいものがあった。

まず、パラソルなど一本も立っていない。(やはり季節的に早かったか・・・)ヤシの実なんて中華街に行けば売っているし、水着の娘なんていやしない。

唯一、私のイメージ通りだった砂浜も、ワカメならぬなんだか巨大な海藻がうちあげられており、とても生臭かった。貝殻を集めようにも欠けてしまっている貝殻しか見当たらず、女の子らしい(?)可愛い貝殻なんて見つからなかった。

しかしまあ、沖縄の海は満喫できたと思う。



5.ちゅうらうみ

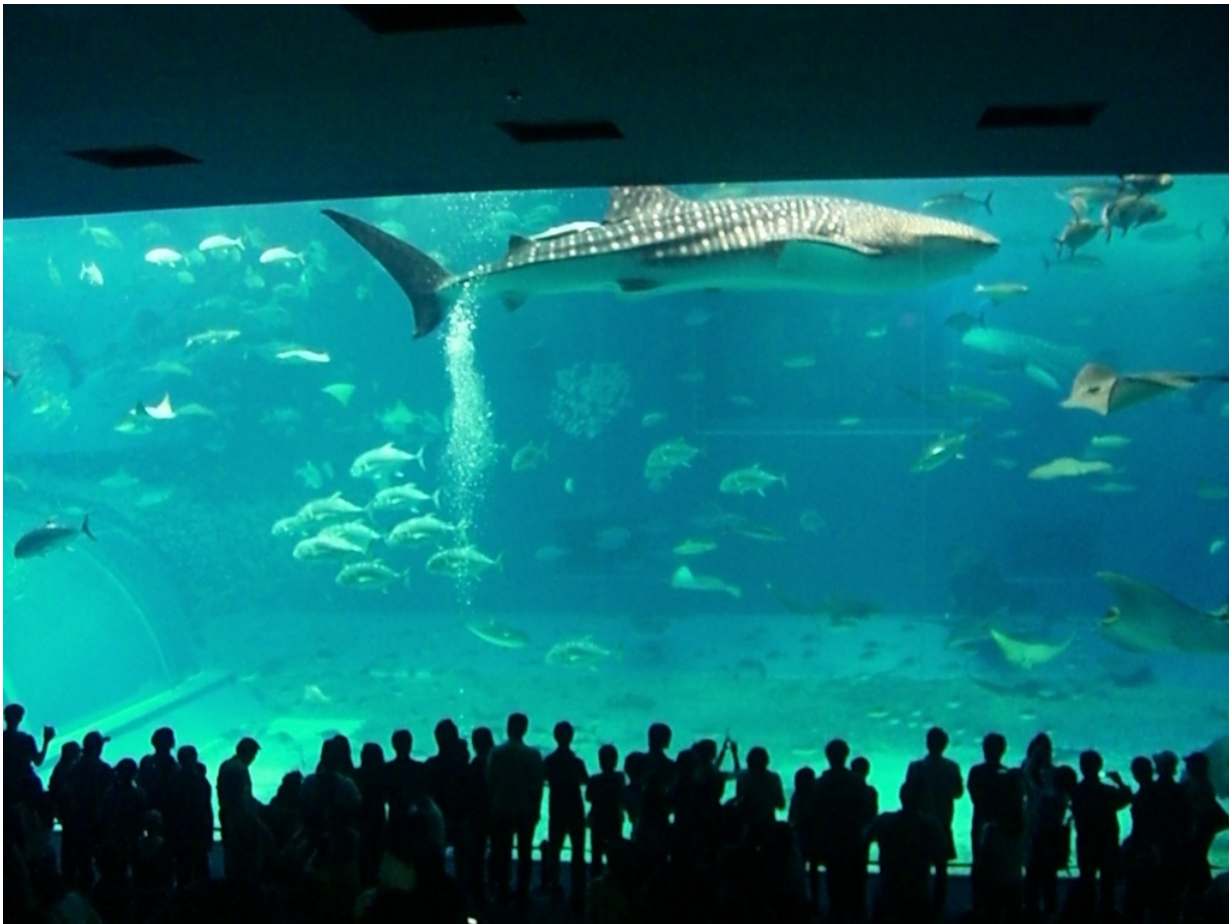
とうとう沖縄旅行も最終日となってしまった。最終日は私も前から行きたかった「美ら海水族館」へ行くことになった。美ら海水族館は沖縄ならではの魚の他にも、鮫やエイなど色々な海の生き物が見られるということで、旭山動物園と並び日本中で有名な観光名所である。



※このおじさんは一切関係ありません

中に入った私たちは順路に沿って見ていくことにした。といってもあまりにも人が多すぎてなかなか前へ進めなかったのだ。館内のパンフレットには水族館にいるすべての魚や海の生き物の詳細が掲載されており、それを読みながら見学していった。

中でも一番目を引いたのがこちら↓。



他の観光客の第一声、「でかい！」

ちなみに私は「デカーッ！！！」

とにかくでかいという印象だった。どうやら巨大な一枚強化ガラスを使用しているらしく、美ら海の推している箇所だそう。水槽の中には鮫、エイ、マグロなどの大きな魚のほかにもイワシやアジなど、私たちがよく知っている魚も泳いでいたので、実に面白かった。

6.帰京

とうとう、2泊3日という日程で繰り広げられた馬場ちゃんの沖縄冒険旅行も別れの日となった。思い起こせばここへやってきてから、いろいろな沖縄らしい経験をしたものだ。沖縄の海を満喫し、沖縄美人と2ショット、泡盛とビールで宴をし、美ら海で海の生き物を観察し、ハブ酒で疲労回復。

ん～、じつに有意義な沖縄時間を過ごすことができた。

家族でどこかへでかけるといふ機会がなかなか少なくなってきた今日この頃。あまりコミュニケーションを取れていなかった日常から、今回訪れた沖縄という南国の島は私たち家族の絆を深めたと思う。次は私が出資をして家族で海外に行きたいともひそかに思っている。

東京へと帰る飛行機の中で私は今回の沖縄冒険を振り返っていた。思えばあまり天気には恵まれなかった気がするが、今となってはよい思い出となっている。正直言って、美人バスガイドさんのことばかり考えていた。ん～、恋をしたのかもしれないな。そして私は眠りについた。

飛行機が羽田空港に到着し私たちはそそくさと空港を後にした。東京駅からタクシーを拾い、自宅まで帰った。

家に帰ると祖父母、そして愛犬メグがお出迎えをしてくれた。

メグは私たちがいないととても寂しがるので、旅行をするたびに不安でいっぱいである。なにより、無事に家に帰れたことを祝って、メグとツーショット！



やっぱり沖縄最高 (•^o^•)

